

防災ニュース☆

NO・23

野路自主防災組織事務局

平成25年1月15日

発行責任者 福井太加雄

路上訓練開催のご案内

「安全・安心して住める町づくり」を目指して活動を野路自主防災会で展開しています。「自助」として自分たちの地域は自分たちで守る取組みの強化を図るため下記のとおり「路上訓練」を開催しますので、多数の方々のご参加をお待ちしています。

記

日時 平成25年1月26日（土） 午前10:00～11:30

場所 新宮会館境内

訓練内容

- ① 「放水銃」による放水訓練（文化財防ぎよを兼ねて実施）
- ② 「水消火器」による消火訓練
- ③ 消火器の確認・消火器の点検（神社入口に設置されている消火器具により訓練を行います）



平成25年度草津市消防出初式に出動



1月6日（日）草津市消防出初式が
市役所と草津中学グラウンドで開催され
女性消防隊と評議委員 30名が参加しました。



式典の祭、下記の防火・防災の誓いを参加者一同が行い防火・防災に努めることに
しました。

- ★ 我々は、「人の命の大切さを第一として、自分たちの地域は自分たちで守る」という「自助・共助」の精神のもと、各組織のなかの一員として役割を果たすため、積極的な行動に努めます。
- ★ 我々は、地域住民が互いに助け合うことができる体制、隣保協同の輪を広げ、災害時の減災と防災力の向上に努めます。
- ★ 我々は、「安全で住みよい、災害に強い地域社会」をつくるため、互いに連携・協力し、防火・防災に努めます。

◎町民のみなさんとともに防火・防災の誓いとしましょう。

・女性消防隊が一斉放水訓練に参加しました！



地震や水害 危機に備え

南海トラフ巨大地震や首都直下地震の発生が懸念され、大型化した台風による水害などの危険も高まっている。東日本大震災から得た多くの教訓を生かし、次の試練に備えるため、今年を「減災元年」にしなければならない。



国が対策を検討する
主な地震の震源域

東日本大震災のような海溝型地震のうち、東海から九州

教訓を生かせ

の太平洋岸を襲う南海トラフ巨大地震の被害は、最悪で死者・行方不明者32万3千人、全壊家屋も238万6千棟と想定されている。東日本大震災と比べ、いずれも20倍近い

南海トラフ 被害、東日本の20倍

い規模となる。

ただ内閣府は、全員が地震直後に避難すれば、津波による死者を最大9割減らせると推計する。

首都直下地震に対しては、

全国に活断層2000カ所

東京都が、都内で1万人とされる死者を6割減らす目標を設定した。住宅の耐震化などの「自助」と、消防団の強化など「共助」の充実を進めている。

地震は陸にも潜む。全国に活断層は約2千あり、国が調査しているのは規模の大きな110にすぎない。地震はいつどこで起きても不思議はない。日ごろから準備しておく必要がある。

水害の被害も減らすことは可能だ。気象庁は昨年、気象情報の発表方法を見直した。大雨警報を出した後、予測雨量だけでなく「経験のないような大雨」「過去最大の豪雨に匹敵」といった情報も伝えていく。予報官が持つ危機感を自治体や住民らと共有し速やかな避難につなげるためだ。

耐震や連絡先考えよう

災害に備えよう

非常持ち出し品

- 現金
- 非常食
- 飲料水
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- ヘルメット
- 救急医療品
- 衣料、タオル
- ティッシュペーパー、軍手、雨具、ライター、ビニール袋、缶切り、栓抜き
- ライフジャケット
- 生理用品など

チェックリスト

- 非常食
- 飲料水
- 卓上こんろ
- 毛布、寝袋
- 洗面用具、トイレ用ペーパー
- ポリ容器、バケツ
- キッチン用ラップ、ビニールシート、新聞紙、ろうそく、ロープ、布製の粘着テープ、ボール、スコップなど

「避難カード」を記入し、常に携帯しよう!

家族会議で話し合っておこう!

被災したAさんが、無事であることを伝えたい
伝言回線 070+0+Aさんの自宅の電話番号

家族や親戚・友人がAさんの安否を確認したい
伝言回線 070+0+Aさんの自宅の電話番号

避難カード

避難カード

氏名 _____

住所 _____

生年月日 _____ 性別 _____ 家族人 _____

緊急連絡先 000-000-0000

緊急連絡先 000-000-0000

緊急連絡先 000-000-0000

避難先
 山登り口
 山公園
 小学校
 集会所
 高校
 小学校

(和歌山県の取り組み)

家族で対策

災害に備えるためには、家族で話し合っ対策を練ることが重要だ。まず、自分の住む地域では、地震や津波、洪水、土砂崩れなどのうち、何が起きる可能性が高いのかを調べる。自治体の作った被害の想定図などを使って、自宅や学校など毎日いる場所の危険を認識することから始めよう。

その際、地図を見て、被害想定範囲外だからといって「安全」と思い込まない。地図はあくまで一例にすぎない。相手は自然。想定を超えるケースもあるからだ。

次に、避難勧告など緊急時の情報をテレビや防災無線以外で、どう入手できるかを確認。電子メールで携帯電話などに情報を直接送ってくれる自治体もあるので、忘れずに登録を。

地震に備えては、家の耐震性や家具の固定状況をチェック。次に現金や非常食、携帯ラジオなど非常持ち出し品、非常食や飲料水、毛布など非常備蓄品

料水、毛布など非常備蓄品の用意も必要だ。家の近くのどの避難所に行くかも、あらかじめ決めておこう。

学校や会社にいるときに地震が起きれば、家族が離れ離れになることも。無事を確かめられるよう、災害用の伝言ダイヤルや伝言板サービスの使い方を覚えておきたい。名前、緊急の連絡先や避難先などを書いた「避難カード」を携帯するのも、いいアイデアだろう。自宅にいるときに地震が起きたら、すぐに近くの家族の安全と被害を確認。自主防災組織などの申し合わせに従って、無事だと伝え、大丈夫なら救援を手伝う。津波の危険がある地域では、家族がばらばらでも、約束した場所に集まると信じて、まず逃げよう。

台風や大雨で起きる洪水や浸水、土砂崩れに対しては、早期の避難を励行する。ただし、夜中に急に避難所に行くこと、増水した用水路に落ちる恐れもあるので、安全な家の2階にとどまるなど別の対応も必要だ。日ごろから、水防団など地域の人と話し合っ、緊急時のことを考えておこう。

・地震や水害などの危機に備えみんなが防災意識を高めていきたいです。